

## 平成 26 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

肢体不自由教育における牽引力のある学校としての「組織力・専門性・実践力」を継承し、特別支援教育の推進を図るために、時代が要請している「センター的機能の発揮」と「障がいのある子どもの自立と社会参加をめざしたキャリア教育の展開」を行う。その際、本校の校訓でもある「明るく 正しく たくましく」を旨として、以下の3点を重点とした学校経営に取り組む。

- 開かれた学校・地域との連携を重視し、福祉・医療・労働等の関係機関との連携を促進し、支援教育の更なる充実のために地域支援の、センター的機能の発揮に努める。
- 障がいのある児童生徒一人ひとりの将来の自立と社会参加に向けて必要なキャリア教育の充実を努め、個別の教育支援計画、個別の指導計画の充実に努める。
- 安心・安全な学校と子どもの障がいの状況に応じた支援の方策を図るために教員の専門性向上と授業改善の工夫を図る。

## 2 中期的目標

1. 堺・泉北地域における支援教育の推進校として、センター的機能の発揮に努める。そのためには、肢体不自由や知的障がい、自閉症等の障がい特性等の理解や指導技能の専門性を磨き、各教員各々の授業力を高めるための取り組みを行う。その際、以下の内容について、具体的な取組計画を行う。

(1) 校内の支援として、校内研修や授業実践の公開を行うなど積極的に障がいに関すること、授業の研究・研修の企画を行う。その支援として、大学や医療専門職など、外部のスーパーバイザーを招聘して適切な指導援助を受ける環境を醸成する。

\*外部人材の招聘（①大学の研究者 10 回程度、②医師、医療関係者 5 回程度、③園芸専門員他 10 回程度、学生支援員 随時）

(2) 校外支援として、堺・泉北地域の支援教育推進校としての役割を担い、教育委員会・学校との調整を行い、リーディングスタッフ・コーディネーターを中心に巡回相談や教育相談を展開し、地域の学校園に対しての支援方策を展開する。

\*教育委員会と支援方法等の確認を行い、H28年度までに支援方法等の確立を図る。

(3) 授業力の向上や授業改善として、ICT等の機器を活用した教材の導入等の工夫を図る。タブレット端末機を計画的に導入し、どの授業でも活用できる環境を整える。

\*H28年度までにICT等の機器を利用した実践をまとめたものを作成する。

2. 障がいのある児童生徒一人ひとりの将来の自立と社会参加に向けて必要なキャリア教育の充実を努め、個別の教育支援計画、個別の指導計画の充実に努める。

(1) 「堺支援学校版キャリア教育ステージ表」を活用した個に応じた個別の指導計画等を念頭に授業での実践・工夫を図る。

(2) 「個別の指導計画・個別の教育支援計画」の充実・活用に向けた取り組みを各学部で検証し、保護者との連携促進と移行を意図したシステムを構築する。

(3) 「環境教育」を教育課程に位置付け、各学部での取り組みを行う。その際、「ホタルプロジェクト」のカワナナ養殖や伝統野菜である「田辺大根・天王寺蕪」等の栽培・収穫・給食での活用等を通して検証を行う。

(4) 卒業後の進路について、社会参加ができるような進路保障をする。

(1)(2)(3)については、H27年度までに成果の検証を行う。

(4)成果の検証を進める。

3. 安心・安全な学校づくりを推進する。

(1) 定期的安全点検と同時に、緊急時を想定したマニュアルの再確認とシミュレーションを行う。防災対応についてPTAと連携し取り組む。子どもの安全確保や人権尊重に基づいた取り組み月間等を設け、教職員への人権意識の涵養に努める。

(2) 重度重複障がい・医療的ケアの必要な児童生徒の安全な指導のため、医師・看護師などの連携を図り、保健室がキーステーションとなってマニュアルの再確認と点検を行い研修の充実に努める。

(3) 健康教育を推進する

\* (1)(2)は、毎年成果の検証を行う。

(3)は、保健だよりや給食だよりの充実を図る。

4. 機能的な組織づくりを推進する。

(1) 分掌間の連携や分掌内の係分担の連携を進める。

(2) 首席会、運営調整会議、運営委員会、職員会議といった流れで課題解決に向けての検討を進める。

(3) 人材の育成を進める。

\*機能的な組織づくりをめざし、毎年検証を進める。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 26 年 10 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>○概況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>10月下旬から11月上旬に、保護者および教職員を対象に実施した。回収率は、保護者 58.5%、教職員 97.5%であった。</li> <li>保護者を対象としたアンケート内容 「教育活動に関する項目」と「学校運営に関する項目」の17項目</li> <li>教職員を対象としたアンケート内容 「学校教育計画」「特別活動」「進路指導」「交流教育」「自立活動」「健康管理と指導」「校務分掌」「防犯・防災」「職場環境」「保護者・地域」「学校運営」等の37項目</li> </ul> <p>○結果等</p> <p>保護者・教職員ともに肯定的評価を示している項目も多いが、ここでは、</p>	<p>第1回 (6/27)</p> <p>○学校経営計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新任教員の指導（学校カラーに合った方法）が大切。</li> <li>今後も放課後デイサービスとの連携を深めてもらいたい。</li> <li>カニューレ抜去時に医師の派遣協力を考えてもよい。</li> <li>性教育について系統的に取り組む必要がある。</li> </ul> <p>○学校教育自己診断について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ブログやホームページを見る人が増えるような工夫をしてほしい。</li> </ul> <p>第2回 (12/12)</p> <p>○学校経営計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域と連携した清掃活動については、自治会としてもさらにPRしていく。</li> </ul>

府立堺支援学校（本校・分校）

<p>課題である（“あまりあてはまらない”“まったくあてはまらない”の割合が多いもの）を記す。</p> <p>【保護者】（※＝前回評価よりも改善しているもの）</p> <p>① 小学部・中学部・高等部と連携した教育内容となっている（※）</p> <p>【教職員】（※＝前回評価よりも改善しているもの）</p> <p>① 「道徳教育」の取り組みは進んでいる。</p> <p>② 各分掌・委員会の業務内容、量は適切である。（※）</p> <p>③ 学校のホームページは時々見ている。（※）</p> <p>④ 快適な職場環境の創造をめざした取り組みが行われている。（※）</p> <p>⑤ 職員配置などの教育条件整備は十分行われている。（※）</p> <p>○今後の対策</p> <p>診断結果に係る「課題への対応」という用紙に、2月末までに各担当部署において、「現状・方針・改善計画の具体案」を記入作成し、学校組織としての改善策の共通認識を図り、具体的な取り組みを進めていく。</p>	<p>・肢体不自由のスポーツ大会への参加も検討してもらいたい。</p> <p>○人材育成</p> <p>・社会人としての心構えが大切。</p> <p>・医療的ケアについては、小・中・高の連携が重要。</p> <p>・障がい児教育の専門性をつけてもらいたい。</p> <p>・保護者対応の心構えを学んでほしい。</p> <p>・卒業生が挨拶してくれてうれしかった。挨拶が基本。</p> <p>・堺支援でフォローアップ研修が行われているが、事業所でも日中デイサービスの4年目までの職員も研修を行っている。学ぶだけでなく、自分の仕事を見つめなおす機会になっている。</p> <p>第3回（2/27）</p> <p>○学校教育自己診断について</p> <p>・小・中・高の連携については、情報の連携もあるが、教育内容の連携も重要である。</p> <p>・個別の教育支援計画というツールをどう活用するか。保護者とのつながりを作ることが大切。引き続き保護者との連携を進めていってもらいたい。</p> <p>・分校は学園との関係が重要になってくる。</p>
--	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<b>1</b>	<b>支援教育のセンター校と教員の専門性向上の取組</b>	<p>(1) 研修は研究部が各部署からの企画内容をコーディネートし、学期に学部一回の公開授業や初任者の公開研修を実施する。研修の系統性も考慮する。</p> <p>(2) ICTの活用環境を図るためにも、引き続き活用研修を行い、実践報告会を学期に1回実施する。</p> <p>(3) 授業の研究・研修の企画を行う。大学や医療専門職など、外部のスーパーバイザーを招聘して適切な指導援助を受ける。①大学の研究者 10回程度、②医師、医療関係者 5回程度、③園芸専門員他 10回程度、学生支援員 随時</p> <p>(4) リーディングスタッフ、コーディネーターと自立活動専任スタッフを中心に校内・校外支援の組織的な動きを支援する。</p> <p>(5) 福祉関連機関や放課後デイサービス機関との連携を強化し、支援計画・研修等の取組等共有を図る。</p>	<p>(1) 参加者からの振り返りシートによる評価 80%以上</p> <p>(2) 実践報告会の振り返りシート評価 80%以上</p> <p>(3) 外部人材からの受講者への評価 80%以上</p> <p>(4) 各市教育委員会及び学校園からの評価 90%以上</p> <p>(5) 福祉関連機関放課後デイサービス機関からの評価 70%</p>	<p>(1) 参加者の評価は、約 85%であった。公開授業の狙いを再確認し、より効果が出るよう努める。(○)</p> <p>(2) 評価は、約 80%であった。教員の意識は高まっているので、研修内容を工夫し継続する。(○)</p> <p>(3) 評価は約 80%であった。ほぼ予定通り実施できた。教員の専門性向上に寄与している。(○)</p> <p>(4) 評価は約 90%であった。校外支援は、ブロックとしての支援体制をさらに検討していく必要がある。校内支援は、自活専任が中心になり、今年度導入したスパイダーシステムの研修も進めた (○)</p> <p>(5) 評価は約 70%であった。日常の連携は図れたが、支援計画・研修等の取り組みの共有までは至らなかった。(△)</p>
<b>2</b>	<b>自立と社会参加に向けたキャリア教育の充実</b>	<p>(1) (2) 実践の検証を行い、成果・課題の整理を行う。</p> <p>(1) ①個別の指導計画にキャリア教育ステージ表が有効に活用されている。各学部での教育活動の取組の検証を行う。</p> <p>②早期段階からキャリア教育ステージ表をもとにした取組の実践。</p> <p>(2) ①保護者懇談や参観日で検証を行う。</p> <p>②PTA 運営委員会や学校との懇談会で意見集約を行い、改善を行っていく。</p> <p>(3) ①「カワニナ」の飼育を通じ、生き物教育につなげる。</p> <p>②田辺大根の栽培・収穫・給食への利用を通じ、食育にもつなげる。</p> <p>③近隣の清掃活動の支援</p> <p>(4) 本人・保護者のニーズに応えられるよう丁寧な情報提供を行い、適切な進路決定ができるようにし、外部との関わりのない生徒を 0 にする。</p>	<p>(1) (2) 成果の教員肯定的評価が 70%以上</p> <p>(1) ①②成果の教員肯定的評価が 70%以上</p> <p>(2) ①保護者からの肯定的評価 90%</p> <p>②PTA・保護者からの肯定的評価 90%</p> <p>(3) ①②学部の児童生徒・教員からの肯定的反応 85%</p> <p>③地域からの肯定的評価 90%</p> <p>④保護者の肯定的評価 70%以上</p>	<p>(1) (2) 肯定的評価は約 80%であった。(○)</p> <p>(1) ①②肯定的評価は約 70%であった。年間指導計画の中にキャリアステージ表の観点を盛り込んだ欄を作成し、実践した。実践をまとめていく必要がある。(○)</p> <p>(2) ①肯定的評価は約 90%であった。今後も連携を深めていく (◎)</p> <p>②肯定的評価は約 90%であった。学校との懇談会を有意義なものにするようテーマや持ち方を今後も検討する。(○)</p> <p>(3) ①②ともに肯定的評価は約 90%であった。「カワニナ」の飼育も定着し、環境教育と共に地域の「ホテル乱舞計画」にも寄与し、連携も深まっている。田辺大根も全学部で参加し、給食も好評である (◎)</p> <p>③約 90%の評価であった。継続した取り組みとして定着してきた。(○)</p> <p>(4) 肯定的評価は約 80%であった。外部機関等との接点のない生徒は 0 である。情報提供については、個になることも多いので、丁寧な個別対応による相談が必要である。(○)</p>

## 府立堺支援学校（本校・分校）

<p style="text-align: center;"><b>3</b></p> <p style="text-align: center;">安心・安全な学校と子どもの障がいの状況に応じた支援の方策</p>	<p>(1) 定期的安全点検と緊急時を想定したマニュアルの再確認。PTAと連携した防災対応の取り組みの推進。子どもの安全確保や人権尊重に基づいた取り組み月間等を設け、教職員への人権意識の涵養に努める。</p> <p>(2) 医療的ケアの必要な児童生徒の安全な指導のため、医師・看護師などの連携を図る。</p> <p>(3) 大手前分校における病院との連携促進。</p> <p>(4) 重度重複障がいのある児童生徒の事故防止のための技能の習得研修等。</p> <p>(5) 健康教育の推進</p> <p>(6) 子どもの障がいの状況に応じた授業の工夫をし、自己実現につなげる</p>	<p>(1) ①PTA・教職員の定期的な点検を実施し、できることから改善する。</p> <p>②計画的に備蓄品等の検討を進める。</p> <p>③教職員には6月～7月に月間を設け人権研修の実施と啓発活動を行う。</p> <p>(2) ①新転任者・医療的ケアの未経験者に研修をすぐ役立つ要点から始め計画的に実施する。</p> <p>②医師・看護師からの定期的カンファレンスを設定する。</p> <p>(3) 「学校・病院との連携協議会」の学期1回開催及び「月一回の連絡会」の開催の継続とより実効性を持たせるため内容の検討を進める。</p> <p>(4) PTやST等の専門家を招聘して、介助の方法や身体的アプローチの仕方等の技法を学ぶ機会を企画する。</p> <p>(5) 保健だよりの充実、栄養教諭と連携した取り組みの実践</p> <p>(6) 教材の工夫や指導の工夫をし、学期に1回報告会をする。</p>	<p>(1) ①すぐ改善できないこともあるが、改善の対応が100%</p> <p>②計画の80%以上実施</p> <p>③振り返りシートでの肯定的評価85%</p> <p>(2) ①受講者からの振り返りシートの肯定的評価85%</p> <p>②医師・看護師からの受講者への肯定的評価80%</p> <p>受講者からの肯定的評価85%</p> <p>(3) 病院関係者からの肯定的評価80%</p> <p>(4) 教員からの肯定的評価80%</p> <p>(5) 保健だよりの定期発行新たな実践を増やす</p> <p>(6) 児童生徒、保護者からの肯定的評価70%</p>	<p>(1) ①改善の検討を進め、予算の状況をふまえて、できることから対応した。今後も計画を立て、改善を進める。改善対応は約90%であった。(△)</p> <p>②計画していた備蓄の80%であった。今後もPTAと連携を進める。(○)</p> <p>③肯定的評価約90%であった。8月に実施した体罰防止研修も小グループに分けて討論できた。(○)</p> <p>(2) ①肯定的評価約85%であった。要約版を作成しわかりやすくなった。(○)</p> <p>②肯定的評価約80%であった。受講者からの肯定的評価は90%であった。今後も継続して実施する。(○)</p> <p>(3) 肯定的評価約80%であった。会議の運営方法等持ち方の話し合いもし、具体的な改善点も見られた。(○)</p> <p>(4) 肯定的評価約85%であった。全体的なことや個別対応など専門性向上に役立っている。(○)</p> <p>(5) 定期発行以外に必要なに応じ情報提供等を行った。給食便りでの食育や講師を招き衛生面の指導も実施した。(○)</p> <p>(6) 肯定的評価約80%であった。学期に1回の報告会を各学部で実施した。(○)</p>
<p style="text-align: center;"><b>4</b></p> <p style="text-align: center;">機能的な組織づくりの推進</p>	<p>(1) 校内組織の機能的運営</p> <p>(2) 人材育成</p>	<p>(1) ①複数の分掌に関連する事案等を運営調整会議、運営委員会で審議し連携できるようにする。</p> <p>②分掌内の仕事内容を集約し、各係がスムーズに運営できるようにする。</p> <p>③首席会、運営調整会議、運営委員会、職員会議といった流れで、課題解決や将来構想に向けての検討を進める。</p> <p>(2) ①全体的な初任者校内研修を定期的を実施し、初任者の育成を推進する。</p> <p>②OJTを推進する。</p> <p>得意分野の助言を得られるようなシステムの構築をする。</p>	<p>(1) ①連携した取り組みを増やす</p> <p>②仕事内容、分担表の整理</p> <p>③定期的に実施し、課題解決等の確認をする</p> <p>(2) ①受講者からの振り返りシートの肯定的評価70%</p> <p>②システムの構築</p>	<p>(1) ①外部講師を招いた研修では、複数の分掌で調整し実施した。また、学校教育自己診断で課題となった事項についても、連携して取り組んだ。(○)</p> <p>②各分掌で進めている(○)</p> <p>③課題解決に向けた取り組みや将来構想に向けた検討を進めることができた。(○)</p> <p>(2) ①肯定的評価約85%であった。定期的な実施し、本校の状況把握や初任者同士や2・3年目の教員とのつながりも深まった。(◎)</p> <p>②アンケートを実施しまとめている。活用方法を検討する必要がある。(△)</p>